

ます。このため、市では廃棄物の資源化やエコライフを進めるため、出前講座の充実や環境シンポジウムを開催し、市民意識の向上を図ってまいります。廃棄物対策につきましては、燃えないごみの祝日対策や収集効率の改善を図るため、収集体制を全面的に見直し、四月から実施してまいります。また、昨年十一月から実施している古紙類の収集についてモデル地区の成果を踏まえ、収集区域を吉川地区全域に拡大し、さらなる資源化の向上を図ってまいります。

人と自然が調和した

まちづくり — 都市基盤

第四の柱は、「人と自然が調和したまちづくり」でございます。

「特色ある市街地の整備」につきましては、中央地区土地区画整理事業について、中央中学校西側とアクアパーク西側一部区域の使用収益開始を促進してまいります。吉川橋周辺地区につきましては、中川河川改修に伴い吉川橋の架け替えが県など関係機関で検討されている中、まちづくり協議会を中心に、土地利用などについて地権者等と協議を進めてまいります。吉川駅南地区につきましては、事業の早期完了を目指し、引き続き都市基盤整備公団や関係機関と連携を図りながら促進してまいります。

次に、「充実した公共交通網の整備・促進」につきましては、新たなバス路線の可能性を検討するとともに、既存バス路線の拡充とおあしす線のバリアフリー化および武蔵野線の輸送力・利便性向上を促進してまいります。

次に、「総合的な治水対策の推進」につきましては、上第二大場川の改修にあたり引き続き多自然型の護岸整備を実施してまいります。また、駅周辺地域の浸水被害の軽減を図るため、木売排水区および第一排水区に新たな雨水管渠の整備を行うとともに、第一排水区の治水安全度の向上のため、貯留施設について手法を検討してまいります。さらに、国施工の中川の河川改修、県施工の大場川、第二大場川の河道改修および駅南調節池の整備につきましても、事業の進捗が図られるよう引き続き関係機関に強く要望してまいります。

魅力的で活力ある

まちづくり — 産業振興

第五の柱は、「魅力的で活力あるまちづくり」でございます。

まず、「魅力ある農業の振興」についてですが、地産地消の推進を図るため、これまで学校給食への吉川産米の使用、野菜などのスーパーなどへの販売拡大を行ってまいりましたが、本年度は、吉川

産農産物を使用した付加価値の高い加工品を開発し、農産物の消費拡大を図るため吉川農産物魅力アップ事業に取り組んでまいります。次に、「活力ある工業及び賑わいある商業の振興」につきましては、厳しい状況が続いている中小企業者の経営安定化を図るため、資金融資制度における融資枠を拡充するとともに、経営改善・人材育成の講習会や商工業団体が行う事業の支援など経営の活性化を推進してまいります。

いきがいと学ぶ楽しさを生む

まちづくり — 教育・文化・スポーツ

第六の柱は、「いきがいと学ぶ楽しさを生むまちづくり」でございます。

まず、「生涯学習による人づくり・まちづくりの推進」についてですが、吉川小学校内に新設しました平沼地区公民館の四月の開館併せて子どもたちと地域の人々のふれあいの場・生涯学習の場として学校の特別教室を積極的に開放してまいります。

次に、「豊かな人間性を培う学校教育の充実」につきましては、基礎・基本の徹底や個に応じた指導の充実を図るために、市独自で行っております少人数指導教員や生活指導補助員、教科指導補助員を引き続き配置し、個に応じた指

● 市民一人当たりに使われるお金 ●

平成十五年三月一日現在の人口 六万三千二百十八円となり、その五八、九九三人で計算した市民一人当たりに使われるお金は、二十

内訳は次の通りです。

衛生費	23,321円	民生費	58,414円
消防費	16,958円	土木費	50,654円
農林水産業費	5,292円	教育費	39,266円
議会費	3,671円	公債費	34,755円
その他	3,041円	総務費	27,846円

● 性質別歳出の内訳 ●

性質別歳出とは、予算がどのように使われているかを基準に歳出を分類したものです。

扶助費が三十五・三％、四億一千七百五十六万円増えていますが、これは重度心身障害者医療費、生

活保護費の増加を見込んだためなどによるものです。

普通建設事業費が前年度より二十六・一％、七億八千六百八十九万七千円減っていますが、これは吉川小学校改築工事が前年度に完了したことなどによるものです。

